

単元名

わくわく どきどき 2年生

教科書 下巻 p.3 ～11 単元の配当時間 4時間／活動時期 4月

単元の目標

2年生になってわくわくすることやどきどきすることを伝え合ったり、1年生と交流したりする活動を通して、自分が成長したことや取り組みたいことを見付けたり、1年生のために自分たちにできることを計画したりして、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかるとともに、進級した喜びを感じ、これからの自分の成長に願いをもって意欲的に生活することができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
わくわく どきどきすることを 話そう（1時間） 2年生になってわくわくすることやどきどきすることを伝え合う活動を通して、進級した喜びを実感するとともに、これからの自分の成長に願いをもつことができるようにする。	態	進級した喜びを実感し、これからの自分の成長に願いをもって、取り組んでみたいことについて発言したり、教科書にかきこんだりしている。	・「1年生のときはアサガオの花をたくさん咲かせたから、今度はトマトの実をたくさん採りたいな」など、これまでに得た自信と期待感をもとに、具体的に挑戦したいことを見付けて発言したり、教科書にかきこんだりしている。 ・「生き物を飼いたいけれど、うまくお世話ができるか心配だな」など、不安を感じている友達に対し、これまで経験してきたことをもとに寄り添う発言をして、ともに意欲的に生活しようとしている。	●1年生のときの学校生活の中で、面白かった活動やうれしかった活動を聞き取り、その子どもの興味・関心に合わせて昨年度の2年生の活動写真を提示し、これからの学校生活への期待感を高める。 ●進級へ不安を感じている子どもには、その理由に耳を傾け、気持ちに寄り添ったり、励ましたりする。
1年生を むかえよう（2時間） 自分たちが1年生だったときの経験をもとに、入学してきた1年生にどんな気持ちになってほしいかを考えながら、1年生を迎える会を計画したり、交流したりできるようにする。	知	上級生になった自分たちが1年生のためにできることがあることに気付いている。	「私が1年生ときに、2年生がいっしょに遊んでくれて仲良くなったから、学校に行くのが楽しくなったよ。新しい1年生もどきどきしていると思うから、私たちも安心させてあげたいな」など、自分が1年生のときに困ったことや心配だったことがどのように解消されたのか、そのきっかけとなった人の存在に目を向け、自分にもできることがあることに気付いている。	●自分が困ったときなどに、誰がどのような関わりをしてくれたのか想起させ、友達や上級生、先生など、多くの人が1年生のときの自分を支えてくれていたことに気付くことができるようにする。 ●1年生のためにできることを見付けられなかったり、1年生と関わることに不安感をもったりしている子どもには、自分が上級生にしてもらってうれしかったことはどんなことだったのか問いかけ、自分にも取り組みそうなことを考えることができるように支援する。
	思	1年生がどんな気持ちになってほしいかを考え、それを実現させるための活動を選び、工夫して準備をしている。	「1年生に学校が楽しいと思ってもらいたいから、図書館にある面白い本を紹介してあげたいな」など、目的と照らし合わせて活動を工夫し、1年生のようすを想像して適切な声かけを考えたり、計画を立てたりして、見通しをもって準備している。	●自分が1年生のときに困ったことや心配だったことはどのように解消されたのか、学校でうれしい、楽しいと感じるのはどんなときだったかなどを具体的に想起させ、活動を決めることができるように支援する。
		1年生のようすを意識しながら関わり方を考え、交流している。	「楽しんでるか」「疲れていないか」など、1年生の反応や状態を見て、臨機応変に声かけや遊び方、ルールを工夫しながら交流したり、うまくいったことといかなかったことを整理して記録カードにかいたりしている。	●1年生のようすを意識しないで一方的な関わりをしている子どもに対しては、1年生の表情や反応などを確認するように促す。

単元の評価規準

- 知識・技能
2年生になってわくわくすることやどきどきすることを話し合ったり、1年生と交流したりする活動を通して、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかっている。
- 思考・判断・表現
2年生になってわくわくすることやどきどきすることを話し合ったり、1年生と交流したりする活動を通して、自分が成長したことや取り組みたいことを見付けたり、1年生のために自分たちにできることを計画したりしている。
- 主体的に学習に取り組む態度
2年生になってわくわくすることやどきどきすることを話し合ったり、1年生と交流したりする活動を通して、進級した喜びを感じ、これからの自分の成長に願いをもって意欲的に生活しようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
みんなで あそぼう （1時間） 遊び方や接し方などを工夫しながらみんなで遊ぶ活動を通して、自分の成長を実感したり、自分や友達のよさや可能性に気付いたりして、これからの自分の成長に願いをもつことができるようにする。	思	相手や状況に合わせて遊び方や接し方などを工夫しながら交流している。	これまで1年生と交流して得た気付きを思い起こして、「○○さんは花が好きだから、タンポポの腕輪をいっしょに作ろう」「まだ校庭のことをよく知らないと言っていたから、案内してあげたいな」など、自分なりの思いをもって、1年生が喜んでくれる活動や1年生の助けになる活動を考えて交流している。	●1年生とうまく関わることができない子どもには、他の友達やほかのグループの遊び方を見て参考にするよう促したり、教師といっしょに考えたりする。
	態	2年生として、これからも頑張りたいことややってみたいことを見付け、意欲的に生活しようとしている。	・活動後も上級生としての自覚をもち、「困ったことがあったら教えてね」と声をかけたり、1年生の手本になろうとしたりしている。 ・自分の成長を実感し、「自分が工夫した遊びで1年生に喜んでもらえて、お姉さんになったと感じました。次は○○をしてみたいな」など、これからも取り組みたいことなどを具体的にかいている。	●活動中のようすを撮影した写真や動画を提示し、関わりの中で1年生を笑顔にできていることを称賛し、2年生になったことでよりたくさんの人を喜ばせることができたり、できるようになったことが増えたりしていることを自覚できるように支援する。